

戦略２ 農林水産戦略			
目指す姿４ 農山漁村の活性化			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	農山村振興課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和７年７月31日

中山間地域ならではの農業・農村ビジネスの振興や、半農半Xなど新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大が進むなど、多様な人材が活躍する農山漁村の実現を目指します。

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 中山間地域のブランド特産物数 (累積)(件)	目標			25	28	31	34	80.6%	2	
	実績	22	22	22	23	25					
	出典:県調べ	達成率			88.0%	82.1%	80.6%				
②	【施策の方向性②】 新たな農村ビジネスの取組件数 (累積)(件)	目標			3	6	9	12	111.1%	4	
	実績	—	—	4	6	10					
	出典:県調べ	達成率			133.3%	100.0%	111.1%				
③	【施策の方向性②】 農村関係人口(人)	目標			8,800	9,600	10,400	11,200	124.4%	4	
	実績	9,887	6,518	10,448	11,968	12,933					
	出典:県調べ	達成率			118.7%	124.7%	124.4%				
④	【施策の方向性③】 農村地域づくり活動サポート人材 の育成数(累積)(人)	目標			10	20	30	40	166.7%	4	
	実績	—	—	17	25	50					
	出典:県調べ	達成率			170.0%	125.0%	166.7%				
⑤	【施策の方向性④】 農地保全活動面積(ha)	目標			102,900	103,400	103,900	104,400	98.4%	3	
	実績	102,297	101,908	103,256	103,273	102,284					
	出典:県調べ	達成率			100.3%	99.9%	98.4%				

定量的評価結果	計算式
3.40 (b 相当)	4 点 × 3 個 = 12 点 1 点 × 0 個 = 0 点
	3 点 × 1 個 = 3 点 0 点 × 0 個 = 0 点
	2 点 × 1 個 = 2 点
	合計 17 点 ÷ 5 個 (判明済み指標) = 3.40

a相当:平均点が3.6点以上 b相当:平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当:平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当:平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当:平均点が2.4点未満

2－3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 中山間地域における特色ある農業の振興】	
・ 地域特産物のブランド化など、多様な人材の参画のもとで地域資源を生かした「しごと」を軸として地域活性化を目指すプラン（元気な農山村創造プラン）の策定に取り組む3地域（北秋田市、五城目町2）を支援した。	
・ 農山村地域の所得向上に向け、地元産食材を用いた新たな取組を支援し、2地域（北秋田市、藤里町）で商品開発を行った。	
【施策の方向性② 地域資源を生かした多様な農村ビジネスの促進】	
・ 地域特産物を活用したビジネスの創出に向け、加工所の整備や商品試作等に取り組む5地域（鹿角市、北秋田市2、藤里町、にかほ市）を支援した。	
・ 農家民宿の起業希望者に対し、農泊ビジネスの起業実践研修を実施したほか（7人）、開業に必要な設備導入等の支援を行った（2人）。	
・ 県内各地における食や伝統文化等を生かした都市農村交流活動により、農山村地域に関心を持って交流する農村関係人口は12,933人まで増加している。	
【施策の方向性③ 新たな兼業スタイルによる定住の促進】	
・ 関係人口の創出等による地域活性化を図るため、新たな兼業スタイル「半農半X」の体験を通じた実証調査を5地域（鹿角市、五城目町・大潟村、由利本荘市、大仙市、東成瀬村）で実施し、県内外からの参加者が受入農家との交流や農業を通じて地域との関わりを深めた（28人参加）。	
・ 農山漁村地域を支える人材や組織を育成するため「農山漁村プロデューサー養成講座AKITA RISE」を実施し（入門編：全2回延べ170人参加、実践編：全5回25人修了）、地域で活躍する人材の裾野拡大とネットワークづくりを進めた（育成した農村地域づくり活動サポート人材：25人）。	
【施策の方向性④ 多面的機能を有する里地里山の保全】	
・ 多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金に取り組む地域において、草刈りや水路の泥上げ等の共同活動を通じて農地が保全された（102,284ha）。	
・ 遊休農地再生利用事業により遊休農地の再生に取り組む2者（大館市、男鹿市）を支援した結果、農地の利用（1.6ha）につながったほか、農地の有効利用を図るため、粗放的な土地利用の実証に取り組む2地区（大館市、由利本荘市）を支援した。	

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
b	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.40で「b相当」であることから、総合評価は「b」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文		農家民宿や農家レストランなど地域資源を生かした多様な農村ビジネスが増え、農山漁村が活性化している。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.7%	10.6%	9.2%		△1.4
	十分 (5点)	1.1%	1.2%	1.6%		+0.4
	おおむね十分 (4点)	11.6%	9.4%	7.6%		△1.8
	ふつう (3点)	38.6%	27.4%	28.3%		+0.9
	否定的意見	33.2%	46.3%	47.4%		+1.1
	やや不十分 (2点)	19.9%	28.3%	28.3%		±0.0
	不十分 (1点)	13.3%	18.0%	19.1%		+1.1
	わからない・無回答	15.4%	15.8%	15.1%		△0.7
	平均点	2.61	2.38	2.35		△0.03

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 地域特産物のブランド化は、地域関係者の合意形成が難しいほか、成果を上げるまでに時間を要する。また、新たな加工技術の習得や販路開拓等において様々な課題が生じ、個人での解決が困難となっている。 ○ 中山間地域は、平場と比べて条件が不利なため、えだまめやねぎのような大面積・大ロットでの取組が困難なところが見られる。	○ 地域を支える人材・組織づくりから地域活性化を目指す取組までを総合的に支援するとともに、必要に応じて課題解決に向けたアドバイザーを派遣するなど、継続的にきめ細かなサポートを実施する。 ○ 中山間地域の生産者の所得向上と雇用の確保を図るため、小ロットでも収益性の高い品目の経営実証結果を基に現地研修会を開催し、生産拡大等に向けた取組を支援する。
②	○ 多種多様な地域資源を生かしたビジネスを实践するなど、地域を活性化させることのできる人材・組織及び活動が不足している。	○ 引き続き、地域づくり活動やビジネス創出の主体となる人材や組織の育成を進め、具体的なビジネス実践につなげる。
③	○ 住民の高齢化等により、農業生産や地域活動を担う人材が不足してきており、地域の維持や活性化に向けた取組の継続が難しくなっている。	○ 「半農半X」の実証調査地域を拡大するほか、これまでの成果やノウハウ等の周知を図ることで、引き続き、外部から多様な人材が携わる地域づくりを推進する。
④	○ 過疎化・高齢化による人材不足に伴い、小規模な組織や協定においては、日本型直接支払の取組の継続が困難となっている。	○ 継続が危ぶまれる組織については、県・市町村・協議会が連携して個別に活動継続に向けたサポートを実施するほか、事務作業の外部委託や広域化を支援する。また、条件不利で農地の有効利用が難しい地域においては、粗放的な土地利用を行うなど、地域の実情に応じた適切な農地利用と維持・保全を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「b」をもって妥当とする。
